

# くらた病院

## —地域に根づく医療機関として—

くらた病院は、1923年（大正12年）の倉田療院の創設にはじまり、

100年にわたって地域の皆さまに医療サービスを提供してきました。

当院は、2017年（平成29年）より、79床の医療型療養病床となりました。

さらに、2022年（令和4年）には、入院を必要とする患者さまの透析ベッドを25床に増床し、

一般外来の患者さまの診療とともに、慢性疾患を抱える入院患者さまの治療と、

急増しつつある腎疾患における透析治療に力を注いでいます。

また、充実したリハビリテーション設備とスタッフを備え、

外来、入院、訪問リハビリテーションサービスを含めて、通院が困難となった患者さまも

安心して継続した治療を受ける環境を整えています。

特に、透析では、最新の血液透析療法や血液濾過透析療法を導入し、

安心・安全かつ患者さまの身体の負担の少ない療法を推進しています。

くらた病院の医療スタッフは、これからも自己研鑽に励み、

「患者さまとご家族のために最善の医療を提供」を使命としていきます。

## ■ より良い医療・介護を提供するために

### ■ 患者さまの側に立って取り組む

くらた病院では、患者さまが安心して治療、看護、介護が受けられるように、診療部、看護部、医療技術部、事務部（総務課、医事課、医療相談室など）の各部門が力を合わせ、一人ひとりを大切にしたいサービスを提供しています。

「診療部」では、一般外来（内科・外科・整形外科・乳腺外科・糖尿病内科・神経内科）から入院治療、リハビリテーションにわたり、最新の医療設備のもとで診断、治療を行っています。

「看護部」では、患者さまの人権を尊重し、入院患者さまには患者さま中心のチーム医療・介護に取り組んでおり、外来においても医師と患者さまの間に立って診療が円滑に行えるように配慮しています。さらに、人材育成と自己啓発・研鑽を通じて看護・介護の質の向上をめざしています。

「医療技術部」には、薬剤科、栄養科、放射線科、

検査科、臨床工学科、リハビリテーション科があります。

「薬剤科（薬局）」では、患者さまに正しい薬の情報をお伝えし、薬の飲み忘れなどが起きないように正しい使い方を指導しています。また、院内での感染予防のために消毒薬の管理・正しい使用法なども指導しています。

「栄養科」では、管理栄養士のもと、医師の指示に基づいて入院患者さまの療養食を提供するだけでなく、患者さまの喫食率や摂食・嚥下動作などを確認しています。また、食事療法が必要な外来患者さまに対する栄養指導や持続可能な食事療法を提案しています。低栄養状態にある患者さまに対しても、調理の工夫や栄養補助食品の提案などを通して、ご自宅でより良い暮らしができるよう努めています。

診療部	外来診療、入院透析、リハビリテーションなどすべてにわたり、患者さまの治療に幅広く取り組んでいます。
看護部	外来、透析、入院の患者さま一人ひとりを大切にして看護・介護にあたっています。
医療技術部	放射線科：安全・安心な診断・治療に向けて技術の向上に努めています。
	検査科：健康状態を知り、疾患の早期発見のために臨床検査を行っています。
	薬剤科（薬局）：経験豊富な薬剤師を中心に、薬剤管理と調剤を行っています。
	リハビリテーション科：外来・入院・訪問のリハビリテーションを行っています。
	臨床工学科：人工腎臓装置はじめ高度管理医療機器の点検・保守、精度・安全の管理などを行っています。
栄養科：入院患者さまへの療養食の提供、外来患者さまの栄養指導を行っています。	
医療相談室	医療ソーシャルワーカーが、患者さま・ご家族の医療・介護に関する相談をお受けしています。
医療安全管理室	患者さまの安全・安心のため、医療安全の維持向上に努めています。

■ 安全・安心な最新設備のもとで

「放射線科」では、胸部・腹部・手足の骨・関節の一般X線撮影のほか、低被ばくの16列マルチスライスCT装置を採用しています。さらに、骨粗鬆症の予防、治療効果の判定や透析患者さまの骨量変化の経過観察などを行うため、ごく微量のX線を使用して骨密度(カルシウム量)を測定する骨密度測定装置を導入しています。

また、患者さまが安心して検査が受けられるように放射線機器管理、画像情報管理を徹底し、診断や治療に貢献できるよう日々技術の向上に努め

ています。画像情報管理ではPACS(医療用画像管理システム)運用を開始しています。完全フィルムレス化により全ての検査画像を瞬時に検索でき、患者さまの待ち時間減少にもつながっています。

「検査科」では、血液検査や尿検査だけでなく、超音波検査、心電図検査、動脈硬化検査、肺機能検査など幅広い臨床検査を行っています。特に、超音波検査はX線を使用しない乳腺の検査も可能で、年齢の若い方や授乳期の方を対象とする検査の精度向上につながっています。



16列マルチスライスCT装置

超音波診断装置による検査



■ 生活の質(QOL)の向上のために

「リハビリテーション室」は、外来リハビリテーション、入院リハビリテーションに加え、訪問リハビリテーションの3種類のサービスを提供しています。

訪問リハビリテーションは、ご利用者さま宅にお伺いし、利用者さまの身体の状態や生活状況、住宅事情などを踏まえてリハビリテーション計画を立て、その方らしい日常生活を送ることができるようサポートします。

外来リハビリテーション・入院リハビリテーションでは、マイオチューニングアプローチ(MTA: Myotuning Approach)を採り入れています。筋肉は痛みがあると防御的に硬くなり、動きが鈍く

なります。マイオチューニングアプローチは、痛みの場所を探し出し、徒手を用いて刺激することで痛みや痺れを消失させて筋肉の緊張を取り除く手法です。

また、人工透析を受けている患者さまや歩行困難な方に対しては、足こぎ車椅子を用いた運動を実施するなど、患者さまへの過度な負荷にならない運動を提供しています。

物理療法機器では、フィジオアクティブHV(ハイボルテージ電気刺激治療機器)、拡散型ショックウェーブショックマスター(圧力波治療機器)などの最新機器を導入しています。

リハビリテーション室





■慢性疾患の治療と併せた入院透析

血液透析医療は、医師、看護師、臨床工学士、薬剤師、栄養士などが連携するチーム医療です。

当院の透析室は、2022年(令和4年)4月にリニューアルオープンし、22床から25床に増床。長期入院が必要な一般病棟に入院している方の転院の受け入れを行っています。

慢性の病気のために腎臓の機能が正常時の30%以下に低下すると血液の濾過が充分に行えず、水分のコントロールや老廃物の排出が困難になります。そのような場合に人工的に血液の浄化を行うのが透析療法で、主に「血液透析療法」と「血液濾過透析療法」があります。

入院透析では、RO水処理装置、透析液供給装置、多人数用透析コンソールの連動システムを構築して安全性の確保を図り、血液透析濾過(オンラ

インHDF)を中心とした透析療法から特殊血液浄化療法まで、多様な治療を提供しています。

透析治療では長時間におよぶ体外循環を安全・適正に遂行するとともに、患者さまの病気や透析治療についての理解、食事、水分、服薬、フットケアなど自己管理状況、合併症による身体状況、生活行動情報などを総合的に把握して、継続的、永続的な慢性疾患に対する治療、看護に努めています。

医師、スタッフについても、日本透析医学会認定医をはじめ、血液浄化専門臨床工学技士、不整脈治療専門臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、慢性腎臓病療養指導看護師などの資格取得者をそろえ、日本透析医学会、日本腎不全看護学会、日本HDF研究会などの学会に継続的に論文発表を行うなど、最新治療に向けた研究・自己研鑽を続けています。

透析室



●ワンフロアに集約された透析室

感染防止のための個室の透析室も用意しています。

●無酢酸透析液(カーボスター P)

血液動態への影響が少なく心機能抑制がないため、透析の治療効果が向上します。

●特殊血液浄化療法

「単純血漿交換療法 PE(Plasma Exchange)」、  
「二重濾過血漿交換療法 DFPP(Double Filtration Plasmapheresis)」、  
「血液吸着療法 DHP(Direct Hemo Perfusion)」、  
「血漿吸着療法 PA(Plasma Apheresis)」など、最新の特殊血液浄化療法を実施しています。

●腹水濾過濃縮再静注法

溜まった腹水をバッグに取り出し、濾過器を用いて細菌やがん細胞などを除去した後、濃縮器で除水を行い、アルブミンなどの有用な物質を濃縮して再び体内に戻す治療法。

患者さま一人ひとりに最良の医療をお届けします

くらた病院は、急性期を脱して病状が落ち着いた患者さまや、慢性疾患を抱える患者さまを対象とする医療型療養病床を主体としています。とりわけ、透析においては、腎臓学会や透析医学会に所属する専門医が常勤しており、最新の知識と豊富な臨床経験を生かして患者さまの多様なニーズにお応えしています。

さらに、平塚市周辺の急性期医療を行う病院や、高度医療を行っている地域の公的病院や大学病院とも密接な連携をとって、患者さまにとって最善の医療を提供することに努めています。

また、患者さまの治療、看護・介護においては、患者さま一人ひとりを尊重し、薬の処方から正確で負担の少ない検査、適切なリハビリテーション、十全な療養食の提供、さらにはきめ細かな医療相談まで、最適な医療環境をお届けすることを心掛けています。

創立100周年を迎えて、私たち医療スタッフは、これからも倉田会の他の施設とも協働し、患者さまのために何ができるかを考え、そのための研鑽に励み、より良い医療サービスに取り組んでまいります。



北村 真  
医療法人財団 倉田会 くらた病院  
院長